

はにい

てんていへの道

平成26年5月23日

スクールライフサポーター（学校ボランティア）になるための研修で、はにい第4号「てんていきらい」を読んで、学生が話し合っています。

「このスクールライフサポーターがすごいのは、この二人の子にずっと関心を持って接しているところだと思う」

「きらいと言われてもあきらめずに接しつづける心がすごい」

「そう、子どもから乱暴されたり、『てんていきらい』って言われて逃げられても、つき合うのをやめていない」

「一見拒絶に見えることが、関心なんだって気が付いているんだね」

「この子の最後の手紙がいいよね」

「ちゃんと向き合ってくれる人がいて、」

「そう、自分の存在を認めてもらえている」

「自分の居場所があるっていうか、」

「だから学校に行きたくなる」

「この最後の手紙でわかるね」

先輩の体験を分かち合い、協議しながら自分たちの活動で大事なことに気付いていく。



「私は学校に行ったときに、子どもが『かまってほしい』のアピールをしているのをわかっているけど、授業の邪魔になってしまうからどうしたらいいかと思う状況があって・・・」

「そうそう、授業と『かまってほしい』子とのつきあひとのバランスが難しい」

「でも無視されるっていうのは、存在が認められていないって感じるよね」

「あいさつしても素通りされるとすごく悲しい」

「それは学校に行きたくなくなる。さっきの話と通じるよ」

「子どもの気持ちを見るってことだ」

「『先生、追っかけてきて欲しい。だから逃げる』か・・・」

『はにい』はコミュニケーションツールです。みんなで語り合きましょう。
ご意見・ご感想は → inochi4027@pref.kanagawa.jp